

<p>2012年</p>  <p>NEW KOMEI TO 公明党</p>	<p>秋号</p>	<p>松下賢一郎</p> <p>議会リポート</p>	<p>発行責任者 藤沢市議会議員 松下賢一郎 TEL 0466-34-4570 matusita@tbb.t-com.ne.jp</p>
--	-----------	--	--

小中学校の「暴力行為・いじめ・不登校」の現状と対策

藤沢市（過去7年間）		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
暴力行為		71件	98件	185件	154件	183件	207件	150件
いじめ	小学校	2件	39件	37件	33件	15件	20件	13件
	中学校	40件	201件	96件	103件	105件	77件	76件
不登校	小学校	81人	59人	70人	50人	65人	61人	58人
	中学校	293人	323人	349人	369人	331人	368人	303人
	小中合計	374人	382人	419人	419人	396人	429人	361人



藤沢市教育委員会では、市立小中学校における「暴力行為・いじめ・不登校」について毎年度調査を行っています。今回は、大きく社会問題となっている「いじめ」の状況と「不登校」について、少し詳しく分析をし、今後の対応や取組について、ご報告させていただきます。

『いじめについて』 平成23年度いじめの認知件数は、小学校13件、中学校76件の計89件のいじめが認知され、いじめの解釈の幅を広げた平成18年の調査から、最も少ない認知件数になりました。

教育委員会では、「いじめ防止プログラム」や「アンケート調査」の全校実施などにより、未然防止に向けた取り組みが児童生徒の意識を高め、いじめの減少につながっていると分析をしているようですが、いじめは表面化しにくい問題であり、実際には、顕在化してこない深刻な状況が懸念されています。

そこで、藤沢市教育委員会では、これまで各学校間で独自に行っていた「いじめに関するアンケート調査」を、教育委員会として統一した質問形態により（①自身がいじめを受けていないか②自身がいじめに係わったことが有るか③まわりで友達がいじめを受けているのを見たり聞いたりしたことが有るか等）再度調査し、最新の状況を分析するとともに、今後の指導資料として指導体制の見直し等、今後の取組に役立てるとしています。

なお、この調査結果は、12月議会にも報告される予定です。

すので、次回、ご報告をさせていただきます。

藤沢市では、平成21年度から「いじめ防止プログラム」を正式に事業化し、教育委員会として推進しています。「いじめ防止プログラム」とは、暴力を使わずに対立を克服する方法や、自分も他人も大切にし、自尊感情を持って生きることが暴力防止につながることを学ぶプログラムです。

また、生徒同士による支え合いのシステムとして、学校からいじめの傍観者をなくすための「スクール・バディ」活動を実践し、生徒が主体となって、いじめを防ごう、いじめの傍観者をなくそう、というメッセージを発信していくことが、このプログラムの最大の特徴と言えます。現在は、村岡、湘洋、御所見、片瀬、湘南台、大庭、高浜、高倉、大清水、第一の10中学校と、天神、鵜沼、村岡、滝の沢の4小学校で「いじめ防止プログラム」が実施されていますが、早期に全ての学校での実施を求めています。

『不登校について』 平成23年度の不登校児童生徒数および出現率は、小学校では、平成22年度より3人減の58人で出現率は0.25%（前年は0.26%）、中学校では65人減の303人で出現率は2.94%（前年は3.62%）となっています。不登校の状態が前年度から継続している児童生徒数は、小学校が20人（昨年より10人減）、中学校は183人（昨年より36人減）となっています。今後の対応としては、学校だけでは対応が困難で、本人・家族だけでは解決が困難な状況への支援として「スクールソーシャルワーカー（2名）」が配置されていますが、今後は派遣時間数の拡充を図り、人員も増やすよう求めています。

議会改革にむけて市民の声を聴く会を開催しました



藤沢市議会では、市民に開かれた議会、分かりやすい議論などを目指して、昨年10月から「議会改革検討会(松下座長)」を設置して「藤沢市議会

基本条例」の制定に向けて検討を進めてきましたが、今後の議会改革にむけて参考とするため、「市民の声を聴く会」を7月7日・8日にかけて、市内4カ所(鵜沼市民センター・湘南大庭市民センター・湘南台市民センター・村岡公民館)で開催しました。

「市民の声を聴く会」には、4会場で128人のご参加があり、議会からは、市議会の役割をはじめ、議決機関である市議会と執行機関である市長との立場の違いや、市議会の主な議決事項、請願や陳情などの審査等の市議会の仕事について、そして、市議会の開催や委員会の

開催、議会の進め方など、市議会に関する基本的な仕組みをご説明しました。

また、議会と議員の活動原則や市民参加を促進することなどを明文化した「議会基本条例」の制定に向け、現在検討している具体的な取組についてご説明をしました。参加された市民の皆さんとの意見交換では、「誓願や陳情の提案者からの意見聴取する時間を設けて欲しい」「議会報告会のあり方(報告内容)もよく考えて欲しい」等、大変参考となるご意見を頂きました。頂いたご意見は、今後の議会改革検討会で議論する際、参考とさせて頂くとともに、市政全般にわたるご意見やご質問は、市長に文書で提出をし、対応について回答を受けてまいります。

【藤沢市議会基本条例の制定にむけた今後の予定】

11月20日から12月19日までパブリックコメントを実施します。その後、頂いたご意見等への対応を経て、来年3月に議会へ上程、可決を経て、4月からの施行を目指しています。なお、条例制定後に、今回お邪魔できなかった9地区についても、4月中に「議会報告会」という形で、開催をしていきたいと考えております。

六会日大前周辺のバリアフリー化



交通バリアフリー法に基づくバリアフリー化事業を推進してきましたが、平成24年度から実施される「六会日大前駅周辺地区バリアフリー化整備」について、

今後の主な事業計画が明らかになりました。

六会日大前駅周辺地区では、駅を中心として、日常、多くの人に使われている生活関連経路を選定し、今後8年間でバリアフリー化に取り組んでいくこととなります。今年度は、駅東口ロータリーのバリアフリー化を行い、平成25年度には、西口ロータリーをはじめ、駅南側の踏切付近の歩道拡幅と日大北門にかけての経路が整備されます。

また、六会日大前駅入り口交差点から旧町田県道までの歩道についても、歩行者・自転車が通行しやすい歩道のフラット化を平成27年度から実施することとなります。

辻堂・上村踏切のソニー前歩道を拡幅

辻堂駅から湘南モールフィルにかけての歩道については、自転車と歩行者を分離する形で歩道幅が拡幅されてきましたが、未だにソニー前の歩道部分だけが急激に歩道幅が狭く危険な状態のため、歩行者と自転車が安心して通行できるよう、歩道の幅を広げるよう市に要望をしてきました。

これに対し市は、上村踏切の南側(松下電器跡地)と北側(湘南モールフィル方面)を結ぶ道路「(仮称)南北線」の開通と併せて取り組む予定としていましたが、道路の開通には、まだ時間を要することから、市民の安全を確保する点からも、早急な取組が必要と認識し、地権者であるソニー株式会社との協議を進め、早ければ、来年度にも歩道の拡幅に取り組むことが確認されました。



松下賢一郎プロフィール <http://www.k-matusita.com>

- 1958年生まれ 54才・鎌倉学園高校卒・神奈川大学卒
- 神奈川トヨタ自動車(株)に17年間勤務
- 平成11年藤沢市議会議員初当選(現4期)
- 藤沢市議会副議長(現在)・公明党県本部副幹事長(現在)

松下賢一郎
ウェブサイト
QRコード

